

神戸外大だより

第153号

2005年7月1日 広報委員会



アジア・太平洋エイズ国際会議ボランティア交流会（6月1日）



クリーン作戦（6月15日）



第6回神戸研究学園都市大学交流戦（6月24日～7月3日）

目	次
巻頭「コンピューター、図書館、研究者」 図書館長 佐藤 晴彦	集中講義日程について
2	5
お知らせ	図書館から
3	6
学生課から	夏季休業期の開館時間と休館日について
3	6
（学生係）夏季休業中の事務取り扱い等について	夏季休業に伴う長期貸出について
3	6
学外合宿について	一般市民開放について
3	6
各種変更届について	視聴覚ライブラリーについて
3	6
盗難にご用心	庶務課から
3	7
国際交流・留学	庶務課・研究所から
3	7
（就職推進室）内定届・就職活動アンケートの 提出等について	先生の出版物紹介
4	8
（教務係）博士論文題目及び執筆計画書の提出について ...	ゼミ紹介
5	9
補講について	在外研究をふり返って
5	10
前期試験について	クラブ紹介
5	12
追試験について	ローンボウルズ国際大会に参加して
5	12
介護等体験の申込みについて	スペイン人形劇公演
5	13
	2005年度教職員人事（その2）
	14
	行事予定
	14



コンピュータ、図書館、研究者

佐藤 晴彦

コンピュータの普及によって、世界は大きく変わりつつある。その波はむろん研究面や図書館にもおしよせてきており、これまでに想像さえできなかったような根本的变化が起こりつつある。それは文献のデータベース化とか電子ジャーナルという用語を挙げただけでもその変化の大きさが十分想像できるであろう。

言語研究を例に挙げれば、文献がデータベース化されたお陰で、これまで何日も数ヶ月もかかって収集していた用例が、今では、何十という文献から、何百、何千という用例を、ほんの数分で「検索」することが可能になってきた。今までカードなりメモなりで用例を収集してきた者にとっては信じられないスピードであり、便利なことこのうえなく、その便利さには、ただただ驚くばかりである。しかし、研究面におけるこうした「便利さ」に喜んでばかりはおれないということにも注意を向ける必要があるだろう。

これはつい先日経験したことだが、院生の研究発表で『水滸伝』の用例が出されたことがあった。示された用例を何度読んでも私には意味がわからない。院生の写し間違いかと思って問題の箇所をもう一度「検索」にかけてみたが、データベースも確かにそうになっている。それでも私は納得できない。そこで『水滸伝』の原本にあたったところ、原文は異なっており、やはりデータベースの間違いであることがわかった。

こういうことはこれまでに何度となく経験してきている。だからといってデータベースに恨み言を言っても始まらない。人間が入力してもOCRなどの機器を使って入力しても、間違いが出てくるのは避けられない。間違いがあることは予め理解しておかねばならない。自分が機器を使っているつもりでも、その機器の欠点をも十分理解していなければ、それは結局機器に使われていることになってしまう。検索で得られた用例が、「おかしい」と思わなければ機器を使う意味がない。つまり出てきた用例を頭から信じるのではなく、その可否を判断できる読解力

が求められていると思う。われわれ機器を使う側の人間が、機器に使われなくするには、常に主体的なかわりを持たなければならないであろう。

主体的なかわりという点では、あまりにも便利になってきたがゆえに、研究者がいよいよ本を読まなくなってきたという傾向が出てきている。ということは、読解力がいよいよ低下していく恐れがあるということである。研究という営為はむろん文献の読解力が必要であることは言うを待たない。しかし、これからの研究ではこれまで以上に読解力が要求されているのである。上で述べたように、データベースを利用する段階ですでにそれが要求されているのであり、読解力がなければ、とんだ恥をかきかねないということになる。

結局、コンピュータが普及したからといって「便利、便利」とばかり喜んではおれない。これからの研究者には(1)コンピュータなどの機器を使いこなすスキル、(2)検索された用例を読みこなす読解力、(3)問題点を発掘する力と新たな観点、(4)真偽を見極める眼識、が求められているのである。(2)～(4)はこれまでの研究者と変わらない。(1)が新たに加わった分、より大変になったことだけは間違いない。



お知らせ



学生課から



〔学生係〕

夏季休業中の事務取扱い等について

夏季休業中の事務取扱い等は、下記のようなので注意してください。

記

1. 学生課窓口時間

月・水・金曜日 9:00～20:00
(但し8月12・15・17日は9:00～17:00まで)
火・木曜日 9:00～17:00

(注)17時以降に窓口に来られる学生は、できるだけ用件を17時までに担当者に電話等で伝えた上で来てください。

2. 学生会館の会議室等の利用時間

月・水・金曜日 9:00～19:30
(但し8月12・15・17日は9:00～16:30まで)
火・木・土・日曜日 9:00～16:30

(注)土・日曜日の利用については、特に理由があり使用許可を受けた場合に限りです。また、使用願は利用日の1週間前までに提出してください。

3. プールの利用について

本学教職員・学生に限る
利用期間及び時間

8月2日(火)～9月22日(木)の月～金曜日
10:00～16:00

(注意)土・日曜日は開放しません。また、事情(水泳部の合宿、練習がある場合等)により開放しない日時もあります。

必ず使用する前に学生会館事務室に「使用願」を提出のうえ、2人以上で使用し、使用後は終了報告をしてください。

諸注意事項

- サンオイル等は使用してはならない。
- プール場内は土足厳禁。
- プールに入る時はシャワーで身体を洗ってから入ること。
- 水泳部のビート板は使用禁止、許可なくコースロープを移動させないこと。
- 必ず水着着用のこと。
- 水泳部部室に入らないこと。

学外合宿について

課外活動等で学外において合宿を行う場合は、必ず学生課に届出を忘れないようにしてください。

運動部の遠征試合、文化部の研究会等参加の場合にも、夏季休業中であっても学生課に届け出てください。

各種変更届について

学籍簿および学生証等の記載内容に変更が生じた場合は、必ず学生係まで届け出てください。

緊急連絡が必要な場合に連絡が取れないケースがありますので、連絡先も必ず届け出てください。

(届出の種類)

改姓届(改姓名・旧姓名・改姓の理由・戸籍抄本など公的証明を添付)

住所変更届(本人または、家族・家庭住所)

保証人変更届(正保証人または、副保証人)

携帯電話などの番号の変更

また、下宿先を届出していない学生は、至急届け出てください。

盗難にご用心!

夏季休業中は、学内にいる人数が少なくなり、その隙を狙っての盗難事件が過去に多数発生していますので、特に女子更衣室、合宿所、部室を利用するときは盗難に充分注意してください。

なお、貴重品は各自で身に着けるなど保管に万全を期してください。また、各部屋およびロッカー等は必ず錠を確実にして、貴重品などは共同で保管するなど盗難防止に努めてください。

国際交流・留学

派遣留学制度

交流協定大学(18校)に派遣留学することが基本です。

補助制度 ・10名(最大20名) 半年または1年間

・本学の授業料相当額(例 学部 半年25万円 1年50万円)

・留学期間は在学期間に算入(在学のまま留学)

・留学先で取得した単位は、30単位を超えない範囲で、本学の基準に換算して認定される

派遣留学先の奨学条件

米国・イースタン・ワシントン大学 1～2名
学生の交換留学協定により、入学金・授業料は免除。

寄宿舎有（費用は自己負担）

米国・エルマイラ大学 1～4名

授業料は、3名派遣の場合、1名全額免除、
他は3分の2免除。

その他の協定大学は奨学条件なし。

スペイン派遣留学

オルテガ・イ・ガセット研究財団トレド国際教育
センターおよびアルカラ大学

16名程度 留学期間は3～4カ月程度

留学費用(授業料・寄宿舎等)は自己負担。ただし、
10名以内の学生には留学費用の一部補助(派遣期間に見合う
本学の授業料相当額)

大学の規定により大学で取得した単位として認定される。

〔就職推進室〕

就職推進室では、皆さんの就職活動を推進するため、
就職ガイダンスや各種セミナーを開催しています。

皆さんの積極的な参加を待っています。

日時・内容については、変更する場合がありますので
直前の掲示板を注意して見てください。

内定届・就職活動アンケートの提出について

企業から内定(内々定)の連絡を受けた場合はまだ就職活動を
継続する場合でも、速やかに就職推進室に「内定届」を提出
してください。教員・公務員志望者についても同様です。

「内定届」の用紙は、就職推進室に置いてあります。

すでに「内定届」を提出された方で今後も就職活動を継続
すると届けられた方は、新たな内定先が決まれば、改めて
「内定届」を提出してください。先に届出た内定先に決定した
場合も報告してください。

また、後輩のために「就職活動についてのアンケート」にも
ご協力をお願いします。

「就職・進学等相談登録票」の提出について

就職または進学を希望される来春卒業予定者で「就職・
進学等相談登録票」をまだ提出されていない方は、就職推進
室に早急に提出してください。用紙は、就職推進室に置いて
あります。

未登録の場合は、「卒業見込証明書」及び「成績証明書」が
発行できませんので注意してください。

就職ガイダンス(3年生対象)について

第2回就職ガイダンス

日時 7月6日(水)13:00～16:00

場所 UNITY セミナー室(4)

内容・「夏休みを有意義に活動する」

人事コンサルタント 前川 明

・「国際派就職セミナー」

・就職情報誌登録カード配布

第3回就職ガイダンス

日時 10月12日(水)13:00～16:00

場所 UNITY セミナー室(4)

内容・「業界研究を始める」

人事コンサルタント 石田 秀朗

・「職種研究について」

(株)毎日コミュニケーションズ 田川 久美

就職対策講座(全学年対象)について

エアラインセミナー

日時 10月5日(水)13:00～15:00

場所 UNITY セミナー室(4)

内容 エアラインの最新採用情報提供と就職対策について

ECCエアライン学院

アナウンサーセミナー

日時 10月5日(水)13:00～15:00

場所 UNITY セミナー室(1)

内容 アナウンサーへの就職対策について

ECCアナウンス学院

ジュニア ホームティーチャーセミナー

日時 10月5日(水)13:00～15:00

場所 UNITY 共同研究室

内容 ジュニア教室ホームティーチャーの仕事について

ECCジュニア

就職対策テスト(3年生対象)について

日時 10月12日(水)16:30～17:30

場所 UNITY セミナー室(4)

内容 「EQ検査」 有料

希望者は事前に、受験料を添えて外大生協書籍部まで
申し込んでください。(当日申込み可)

第3回就職ガイダンス終了後に実施します。

教員採用試験2次対策セミナー

日時 8月13日(土)13:00～15:00

場所 学生会館 第1会議室

内容 教員採用試験の2次面接試験に向けて、
教員になるための心構えや面接試験のA

ドバイス等を行います。
神戸外大OB 福永 恒泰
(神戸高校 校長)

〔教 務 係〕

博士論文題目及び執筆計画書の提出について
本年度博士課程に入学した者は、博士論文題目
(用紙は教務係で配付)及び執筆計画書(2通)
を作成し、9月30日(金)までに教務係に提出して
下さい。

補講について
7月19日(火)~7月25日(月)
該当科目は掲示します。

前期試験について
7月26日(火)~8月1日(月)に前期試験を行いま
す。
前期試験実施計画(時間割表)は、7月8日
(金)に掲示します。
期間外に試験を行う科目もあるので、掲示に注
意して下さい。

追試験について
正当な事由(学生便覧に記載)により前期試験を
受けることができない者で、追試験を希望する者

は、追試験願書(用紙は教務係で交付)と事由証明
書とを教務係へ提出のうえ受験を願い出て下さい。

介護等体験の申込みについて
「教職員免許法」の改正により1998年度以降の
入学者で教職課程履修予定者は“介護等体験”が
必要になります。
2005年度中に“介護等体験”を希望する者は教
務係に申し出てください。
教務係で受け取った書類に必要事項を記入し
提出
申込締切日 8月1日(月)まで

集中講義日程について(敬称略)
<学部・2部>
科目名、担当者、日程、教室は別紙のとおりで
す。
<大学院>
英語学演習(赤野一郎) 各日1~5限
8月2日(火)~4日(木)
英米文学演習(宮川清司) 1~3限
9月6日(金)
9月20日(火)~22日(木) 各日1~4限
日本語演習(福田嘉一郎・中川正之)
9月20日(火)~22日(木) 各日1~5限
12月16日(金)、19日(月)
20日(火) 各日1~5限

学部 集中講義日程表(2005年度)

科目名	担当者	日 程	教室
部落問題と人権 (後期火曜5限とセツ)	朴 一	9月13日(火)~22日(木) 各日4・5限	応用視聴覚
ロシア文化史	木村 真	9月13日(火)~22日(木) 各日2~5限	503
イスパニア文学史 (後期月曜3限とセツ)	木村 榮一	9月13日(火)~15日(木) 各日1~5限	102
英米文学特殊講義b (半期2単位)	宮川 清司	9月16日(金)は1~3限 9月20日(火)~22(木)は1~4限	104
英語学特殊講義b (半期2単位)	リレー講義	9月15日(木)~22日(木) 各日2~4限	504
英語学特殊講義b (半期2単位)	赤野 一郎	8月2日(火)~4日(木) 各日1~5限	CAI
イスパニア文学特殊講義 (後期月曜5限とセツ)	木村 榮一	9月20日(火)~22日(木) 各日1~5限	102
経済法 (半期2単位)	林 秀弥	8月2日(火)~4日(木) 各日1~5限	104
経済法 (半期2単位)	林 秀弥	8月10日(水)~12日(金) 各日1~5限	104
企業行動の経済学 (半期2単位)	大川 隆夫	9月13日(火)~15日(木)は1~4限 9月16日(金)は1~3限	501
産業組織の経済学 (半期2単位)	大川 隆夫	9月20日(火)~22日(木) 各日1~5限	208

現代日本経済論 (半期2単位)	北坂 真一	8月2日(火)・3日(水)は各日1～5限 8月4日(木)は1～4限	501
現代日本経済論 (半期2単位)	北坂 真一	8月5日(金)・8日(月)は各日1～5限 8月9日(火)は1～4限	501
西洋社会史特殊研究 (半期2単位)	山本 明代	8月2日(火)は3～5限・3日(水)・4日(木)は2～5限 8月5日(金)は2～4限	101
国際法政問題特講	岡崎 維徳	8月2日(火)～8日(月) 各日1～5限	1AV
国際経済問題特講	真下 俊樹	8月2日(火)～9日(火)各日3～5限 12月13日(火)～16日(金)各日3～5限	2AV
現代文化問題特講	増田 研	9月20日(火)は1～5限、21日(水)・22日(木)は1～5限 12月19日(月)は2～5限、20日(火)・21日(水)は1～5限	501
教職概論 (半期2単位)	杉山精一他	9月13日(火)～22日(木) 各日・限(2部)	505
教育課程論 (半期2単位)	金丸 晃二	9月15日(木)・16日(金)・20日(火) 各日1～5限	505

2部 集中講義日程表(2005年度)

科目名	担当者	日程	教室
部落問題と人権 (後期火 とセット)	朴 一	9月13日(火)～22日(木) 各日・限	応用視聴覚
商法 (半期2単位)	栗山 修	8月2日(火)～9日(火) 各日・限	501
教職概論 (半期2単位)	杉山精一他	9月13日(火)～22日(木) 各日・限	505
生涯学習概論 (半期2単位)	安原 一樹	9月13日(火)～22日(木) 各日・限	2AV
専門資料論 (半期2単位)	指 昭博 佐藤 通	8月2日(火)～10日(水), 各日・限 8月5日(木) 限は指, 以降は佐藤	5AV

図書館から



夏季休業期の開館時間と休館日について

8月2日(火)～9月22日(木)までの開館日程は次のとおりです。

開館時間 9:00～16:30

ただし8月2日(火)～10日(水)及び9月13日(火)～22日(木)の集中講義期間中は19:30まで開館します。

休館日 毎週土・日・祝祭日

8月11日(水)～19日(金) 曝書期間

9月15日(木)は館内整理日のため17:00まで閉館、17:00から19:30までのみ開館します。

夏季休業に伴う長期貸出について

下記のとおり長期貸出を行います。

長期貸出期間: 7月11日(月)～9月15日(木)

返却日: 9月30日(金)

院生は9月2日(金)以降の貸出分の返却日は4週間後になります。

貸出冊数: 1・2年生、科目等履修生、及

び学外者は上限が通常の5冊から7冊になります。他の方は通常どおりです。

一般市民開放について

夏季休業期間中、一般市民の方に図書館を開放します。

対象者: 受験生及び小・中・高生を除く一般市民

期間・時間については、前述の「夏季休業期の開館時間と休館日について」のとおり。

利用の範囲: 資料の閲覧、複写(貸出は不可)

視聴覚ライブラリー

「夏季休業中の開室について」

夏季休業中に、AV教室・視聴覚ライブラリー内の機器類の保守点検、及び各種教材の整備を行いますので、開室日、開室時間については次のとおりとなります。

開室日: 8月2日(火)～8月10日(水)

9月1日(木)～9月22日(木)

(但し、土・日・祝祭日は閉室)

開室時間: 9:30～16:30

細については、8月中旬までに決定し、9月1日から受付を始める予定です。

場所は、第2学舎504号室、受講料は8回通しで5,000円、1回毎の受講は1,000円で高校生は各半額を予定しています。

9月号の広報「こうべ」や本学ホームページをご覧ください。

2005年度神戸市外国語大学市民講座（予定）

10月1日（土）

<経済学からのアプローチ>

田中 悟 教授 「スタンダードをめぐる企業間競争と企業間協調」

10月4日（火）

<国際経済からのアプローチ>

仙頭佳樹 教授 「日本企業のアジア進出と国際分業」

10月8日（土）

<法律学からのアプローチ>

大島和夫 教授 「労働市場の変化と労働法の改正」

10月11日（火）

<法律学からのアプローチ>

栗山 修 教授 「株式会社をめぐる法的諸問題の検討」

10月15日（土）

<会計学からのアプローチ>

前山誠也 教授 「鏡の国の企業」

10月18日（火）

<政治学からのアプローチ>

村田邦夫 教授 「政治（民主主義）と経済（資本主義）の関係をめぐる諸問題（1）」

10月22日（土）

<政治学からのアプローチ>

吉森義紀 教授 「政治（民主主義）と経済（資本主義）の関係をめぐる諸問題（2）」

10月25日（火）

<経営学からのアプローチ>

近藤義晴 教授 「企業はヒトなり？」



先生の出版物紹介

「近世のロシアに於ける日本に関する情報その他」
Liudmila M. Ermakova 著
スラブ文化の言語社
(269ページ)



今年の春に出た私の研究のタイトルは「近世のロシアに於ける日本に関する情報その他」

であり、モスクワの「スラブ文化の言語」社で発行された。この本は二分構成になっていて、「ロシアで見つかったもの」と「日本で見つかったもの」という二つの章からなっている。

第一章は、1670年頃に作られた、いわゆる教会スラブ語の手稿本である「世界誌」の抜粋で始まる。西欧から入った資料（マルコ・ポーロ、メルカトル、マルチン・ベルスキーの作品、等）の翻訳を纏めたもので、コンピレーションであり、日本に関する部分は「イアパン島」というタイトルが付けられている。

しかし、翻訳だから、一次の資料でないという理由で、昔の書物を取り扱わないわけにはいかない。というのは、ロシアだけでなく、世界のどの国でも、多くの場合、文学史の初期は翻訳史にほかならない。翻訳はいつも文化において重要な役割を果たしている（例えば、現代でも、西欧で日本文化の研究の基礎をなした本はルース・ベネディクトの「菊と刀」であり、一度も日本を訪れたことのない著者が資料だけに頼って完成した研究である）。

この章では「世界誌」をはじめとして、十九世紀末までの様々な書物を例に挙げながら、謎めいた鎖国の日本に対する憧れ、好奇心、興味、推測と仮説の歴史が語られる。

第二章の大部分は私が日本で見つけたものの話である。その中には、天草諸島で見つかったポーランド語のメモが手がかりとなって、発見にいたった、十六世紀にパチカンまで旅行した「天正少年使節」の一人の遺筆（ダヴィデの聖歌の日本語訳）の話、1970年代まで神戸外大にロシア学科で教鞭を執ったオレスト・プレトネル教授宛に書かれた手紙（谷崎潤一郎や優れたロシア人の日本学者より）の内容等が入っている。また、ロシアに於ける日本古典文学の翻訳の歴史と理論的問題に関する研究も入っている。

「中国湖北農村の家族・宗族・婚姻」

秦兆雄 著 風響社
(348ページ・6,000円)



本書は、学位論文を基に大幅に書き直し、日本学術振興会平成十六年度科学研究費補助金の交付を受けて出版したもので、中国湖北省のある農村地域を対象に長期的に行なったフィールド調査から得た資料に基づいて、伝統的な家族や宗族（父系親族集団）、婚姻関係及び人々の死生観の実態、解放後社会主義近代化の過程で起きた諸変化を具体的に記述、考察する民族誌である。

先行研究に対する本書の学術的な貢献は、主に次の三点である。まず、漢人社会においては、父系の出自と血縁原理が家族、宗族、婚姻制度及び死生観を規定するほど極めて重要であり、イトコ婚の多様性もこの視点から説明するべきであると指摘した点。次は、親族制度や組織及びそれらの変化を歴史的に考察する際に、個人の視点は不可欠であるという指摘である。即ち、日常生活の中で父系出自と血縁の原理は、個々人の行為、家族、宗族及び婚姻関係などを自律的に規定し組織していくものではなく、特定の状況の中で限定的に作用するものである。

また、先行研究においては、解放後、伝統的な家族、宗族や、婚姻制度及び人々の死生観に起きた変化を論じる際に、伝統文化は土地改革と合作社と人民公社の時期にはかなり破壊されたが、改革解放以後は徐々に復活しつつあるという見方が多い。しかし、筆者は、土地改革から人民公社期までに見られた合同家族の存続、家長の強い権限、入り婿の復姓と帰宗現象や、人民公社解体後に起きた合同家族と直系家族の解体、老人扶養の深刻さ及び宗族内婚の出現などを取りあげ、そのような見方は不十分であり、再考する必要があると指摘している。

「ドイツ語が織りなす社会と文化」

杉谷眞佐子、高田博行、浜崎桂子、森貴史 編著
関西大学出版部
(430ページ・3500円)



『モモ』などの作品で、日本でもファンの多い作家ミヒヤエル・エンデは、「ある言語を学ぶことは、これまで知らなかった新しい世界を発見する旅行のようなもの」と言っています。言語は、コミュニケーションのツールであると同時に、多様な考え方や情報へのアクセスを可能にする鍵でもあります。

本書では、ドイツ語を通して見えてくる社会や文

化について、これから卒論やレポートを書く学生をターゲットに、21のトピックを取り上げて論じています。そこから見えてくるものは、「ドイツ文化」あるいは「社会」という何か実体のあるものではありません。言語は、社会的、歴史的コンテクストの中で変化し続け、新たな文化を生み出します。ドイツ語が織りなす文化や社会は、たえず新しい解釈を可能にするテキストの集合体のようなものなのです。

具体的には、欧州連合の言語政策や、外国語教育についての議論、チャットやメールなどのメディアに見られる若者言葉の日独比較、多文化社会を目指すドイツの異文化教育や狭義の「ドイツ文学」に収まらない文学テキストについての議論、また、18世紀ドイツのサロンや、旅行記、料理レシピなどを扱った文化史論などを紹介しています。

ドイツ語やドイツ語圏の文化に関心のある方はもちろん、ヨーロッパについて考えたい、卒業論文のテーマを探しているという方は、ちょっとのぞいてみてください。何かヒントが見つかるかもしれません。

以上は図書館に寄贈いただいた書籍です

ゼミ紹介

山田 誠

当ゼミの主たるテーマは「健康的で豊かな人生を送るためのツールや方法」についての研究です。といってもこれでは少々間口が広すぎるので、その中でも特に「スポーツ、レジャー、レクリエーション、自然」に関係するものを扱っています。「物から心へ」という時代になった今こそ、このテーマが重要になっているのです。



安定した人生設計をするために、労働や勉強が必要なことは言うまでもありませんが、緊張や責務ばかりでは人間は壊れてしまいます。ひとりでゆっくりとリラックスする時間が必要ですし、親しい友人や家族と過ごす楽しい時間もなくてはなりません。またどこかに出かけ新鮮な刺激を得てくるのも大切

です。そんな時にスポーツやレクリエーション活動、自然とのふれあいが力を発揮します。ただ、何でもよいというわけではなく、行動する人々の諸条件、時季と場所などに合った質の高いプログラムが求められます。そこで当ゼミでは具体的な事例を通して、諸活動の内容や質の研究をしているという次第です。



日常のゼミでは、テキストの輪読や資料収集による発表、アンケート調査手法の学習などを行っています。昨年後期にはイギリスから地中海方面にでかけるローンボウルズツアーの内容をスコットランドで手に入れた資料から考察することを試みました。そこから読み取れたことは、参加者がメインのスポーツを楽しむということはもとより、太陽が燦々と降り注ぐ風光明媚な南スペイン世界に浸ることでありました。日本人のツアーとは違いスケジュールもゆったりとし、かつ充実した内容だったことがわかりました。今年前期の輪読は「自然スポーツ」がテーマです。

一方、私の哲学として実体験から学ぶことを重視していますので、夏と冬に合宿研修を行っています。夏は播磨灘に浮かぶ兵庫県家島諸島、県立母と子の島にてキャンプです。パイン材のロッジに泊まり、海の幸をいただくことをベースに、カヌー、カヤック、海水浴、釣りなどをして楽しんでいます。夜には満天の星空や夜光虫に出会えるチャンスもあります。冬はスノースポーツ合宿です。学内で一般募集しているスキー教室と合流し雪の世界を楽しんでいます。もちろん宿泊施設や食事の質にもこだわっています。いずれもレクリエーションなスポーツをメインにしながら自然に浸るというもので、自分の五感を通して、どのような環境や条件が整えば質の高い充実した時間が得られるのかを考える機会にしているのです。

卒論のテーマはゼミ生各自、基本的に自分の興味関心に従って自由に設定することになっていますが、ゼミテーマがわかりやすく反映されているものとしてはこれまでに以下のようなものが書かれています。04年度『エコツーズムの国際比較』『ロシア人と自然の関わり・ダーチャについて』03年度『スキュー

バーダイビングの魅力について』『生育環境・過程と自然志向度・青少年に焦点を当てて』などです。その他スポーツ、祭り、音楽、旅行、デズニールランドに関するものなどテーマは多岐にわたっています。

在外研究をふりかえって

韓国滞在記

田中 敏彦

数年前から韓国の歴史と文化への関心を抱いていた私は、様々な人々のおかげで、在外研究の機会を利用して、韓国の大邱市にある慶北大学校人文大学仏語仏文学科の研究員として2004年の4月から一年間韓国に滞在することができた（写真・慶北大学本館）



写真 慶北大学本館

大邱に行くことになったのは慶北大学校の師範大学で東洋史を教えているイム・デヒ先生とたまたま知人

であったからに過ぎないのだが、私が韓国に滞在することを知った父が、「韓国にはダイキュウという町があるだろう？そこには昔師範学校があって、兄貴はその師範学校に行きたがっていた…」と言ったのには驚いた。ダイキュウというのは大邱（テグ）にほかならず、私が行くはずの慶北大学校の師範大学の前身こそ大邱師範学校だったからである。父の兄（1921年生まれ）は、病気をして結局朝鮮に行くことはなく鳥取県の各地で小学校の代用教員をしているときに徴兵され、ガダルカナルで戦死したそうである。父は奇妙な因縁に感慨を覚えたらしく、私が伯父の願望をかなえるために大邱に行くことになったような気がすると言った。

私は大邱の中心部からやや東よりの寿城区にワンルーム・マンションを借りて住むことになった。ようやく韓国生活に慣れた五月の末頃、大学の中央図書館で旧師範学校のことを調べてみたところ、1929年開校の大邱師範学校当時の建物が現在の慶北大学校師範大学附属高校・中学校のなかに文化財として残されていて、しかもそれは私の住んでいる場所のすぐ近くであることがわかった。校門を入れてすぐ左手に赤煉瓦造りの建物があり、これが当時の講堂で、その裏手には本館が残っていた。（写真 旧師範学校本館）

校内を見て回ると、中庭には「学生抗日義挙碑」という記念碑があり、大邱師範学校には学生の抗日秘密結社（たとえば「チュモクテ（げんこつ隊）」）の活動が活発で、1939年には「悪質な」日本人教師

に対する集団暴行事件が起き、多くの朝鮮人学生が退学になったとか、また日本人学生が中心の演習科と朝鮮人学生の属する尋常科の



写真 旧師範学校本館

間には深刻な対立があったとか書いてある。韓国には「人類が犯した最悪の蛮行（堀田善衛）」である植民地支配の傷跡が至る所に残っているが、この傷はまだ完全には癒えていない。そのことを私に痛感させたのは竹島（韓国名は独島）問題であった。去年は韓流ブームに沸いた一年であり日韓関係はかつてなく良好であったのに、今年二月末の駐韓日本大使の「竹島日本領土」発言、そして島根県の「竹島の日」制定によって休眠していたかに思えた反日感情が激しく噴き出したのである。インターネット新聞で詳しい解説記事を読んで気がついたのは、竹島問題は韓国人にとって単に領土問題や漁業権の問題ではなく、植民地支配の傷跡をいわば集約しているということだ。竹島が日本領土として島根県に編入された当時（1905年2月22日）日露戦争を契機に朝鮮に進駐した日本軍を背景にして調印が強制された「日韓議定書」（1904年2月）や「第一次日韓協約」（同年8月）によって実質的に当時の大韓帝国の保護国化・植民地化が進行していたのであり、韓国が竹島の島根県編入を植民地化の第一歩としてとらえているのは当然である。しかし竹島＝独島問題は日韓関係が今なお植民地支配を精算できていないことの一つの結果にすぎないと思われる。韓国側が日本は植民地支配を真に反省したことはなく、したがって再び武力による侵略や支配を繰り返すのではないかという疑いを捨てきれないでいることが問題なのだ。もし日本側がこうした疑いの生じる余地のない方向へ転換すれば、岩礁のように小さなこの島をめぐる軋轢は交渉によって解決するはずなのである。

もうひとつ不思議な因縁の糸があった。私が韓国滞在中お世話になった慶北大学人文学部仏文学科長のウ・ムサン先生には意外な日本とのつながりがあったのである。（写真 ウ・ムサン先生と慶北大学構内で）

豊臣秀吉軍が朝鮮に攻め込んだ文禄の役（韓国名は壬辰倭乱・1592年）の時、朝鮮側に投降して逆に豊臣軍と戦った加藤清正配下の日本人の武将（日本名は「沙也加」で、朝鮮名は「金忠善」）が存在したことは、司馬遼太郎の「韓のくに紀行」を読んで以前から知ってはいた。その人の子孫は今でも大邱からそう遠くない山村に集団で暮らしているそうだが、なんとウ・ムサン先生の奥様はその一族の出身

で、金忠善の遠い子孫だというのだ。それにしても、「沙也加」という奇妙な名前をもち、鉄砲を製造する技術をもった「三千人」の



写真 ウ・ムサン先生と慶北大学構内で

集団とともに投降してその技術を朝鮮側に伝えただけでなく、自らその集団を率いて日本軍と戦い大いなる戦功を挙げたと言われるその武将はいったいどんな人物なのか。金忠善の書いたと言われる「慕夏堂文集」には、「無名師」つまり「大義なき戦」を嫌ってかねて憧れていた礼節の国に投降する、と述べているが、それだけで彼の秀吉軍に対する敵対行為を説明できるのだろうかという疑問が湧いてくる。

鹿児島の陶工沈寿官氏（壬辰倭乱の時に薩摩軍によって連行された沈氏の14代目にあたる）によって、「沙也加（さやか）」は鉄砲集団であった紀州の「雑賀（さいが）」衆に属する人物ではないかという興味深い説が出されていることを知ったのは、日本に帰ってきてからである。石尾芳久『被差別部落の起源』が明らかにしたように、日本の被差別部落の起源は、近世武士団が専制主義国家を形成する過程で、抵抗する人々（キリシタン、百姓一揆の指導者、とりわけ一向宗門徒）を賤民身分に落としたことに由来し、その抵抗の最大にして最後の闘いが1585年3月24日から一ヶ月続いた紀州太田城における「三千人」の雑賀衆の一向一揆であった。その太田城を水攻めにしたのがほかならぬ秀吉で、一ヶ月の死闘の後、53名の指導者は残りの雑賀衆の助命を条件にして自決したと云われるが、秀吉の悪魔的な狡知は、死よりも転向・服従を選んだ人々の身分を落として賤民化すると同時に、転向・服従の証として行刑役（死刑執行人などの忌み嫌われる職業・役目）を強要したことだ。彼らの苦悩はいかばかりであったであろう。死よりも服従を選んで生き延びたことに後ろめたさを感じるだけでなく、権力に迎合して忌み嫌われる役目をはたさざるをえないことに深い恥辱感を抱かざるをえなかったであろう。権力に抵抗して自由と平等の自治組織を守り通そうと最後まで戦った人々が、逆に賤民として蔑視され、あまつさえ自らを恥じるという倒錯！かくも非人間的な差別制度を作ったばかりか、隣国朝鮮への侵略という惨禍を引き起こした秀吉を英雄扱いしながら、我々の真の誇りであるべき思想の自由と自治のために抵抗した人々の末裔を逆に差別しているとは！もし「沙也加」に率いられた集団が生き延びた雑賀衆であったとすれば、彼らには秀吉軍に反逆して朝鮮軍に加担する理由が十分存在したのである。

朝鮮の開化派官僚たちが起こしたクーデタ・甲申政変(1884)の失敗を契機にして福沢諭吉が「脱亜論」(1885)を書いた頃から、日本は「脱亜入欧」的姿勢(欧米に対する追随とアジア蔑視)を取り続けて来た。韓流ブームがこうした姿勢に変化が生まれつつある兆候であるとすれば、その意味は決して小さくはない。私が韓国に滞在するようになったのは、ブームになっている韓流がきっかけではなかったものの、もっと広くて深い韓流にひきこまれたせいではないかと考えている。

クラブ紹介 写真部

写真部です。

写真部というとなぜか暗いイメージを思い浮かべがちです。かく言う私もその一人でしたが、しかし、みなさん。おそらくみなさんも日頃から写真を撮ることがあるとおもいます。写真部はただ、その延長線上の“日常の何気ない瞬間”というのをこよなく愛する者たちの部なのです。

もともとこの大学には写真部はなかったのですが、一昨年、写真好きの学生が集まってサークルを結成し、去年から正式に部に昇格し、写真部として活動をさせていただいております。

サークル時代には学園祭の時期に一度写真展をしたきりでしたが、去年からは積極的に活動をはじめ、新入生に配られる体育会の部活動紹介のための写真を撮影したり、今年は新入生歓迎をかねての写真展を四月にすでに二回行いました。それから前期中にもう一度する予定ですが、その際には今年の新入生の写真も展示する予定です。

部員が日頃から各自写真を撮るといった活動が主なので、それほど忙しい活動ではないですし、兼部をしている部員も少なくありません。先輩後輩関係もほとんど気にならないような穏やかかつ和やかな部なので、写真初心者の方の入部もこの時期からの入部も大歓迎です。

部室ではフィルムの現像を自分たちでしています。残念ながら暗室や機材がないので引き伸ばしまではできませんが、なかなか楽しい作業です。失敗する



こともたまにあります。自分の撮ったフィルムを自分の手で現像するという事は写真家魂をさらにかきたてる、とても意味のあることだとおもいます。

できたばかりの部なので、ほとんどがまだ手さぐり状態ですが、今年も学園祭での写真展示はもちろん、少しずつ活動の規模を大きくして、他大学の写真部との交流や学外での写真展示も視野に入れて頑張っていきたいとおもいます。

一人一人がいつも“自分にしか撮れない写真”を撮るために、夢中でシャッターを切っています。あなたも、過ぎゆく青春のひとつときを心のカメラにおさめませんか？

“Concentrate On Every Bowl Every Time!!”

英米学科4年 近藤 快彦

今年の3月3日から1週間、私は香港に行ってきました。そこで私は、Lawn Bowls(ローンボウルズ)というスポーツの国際大会(Tiger Bowls International 2005)に日本代表選手として出場してきました。

Lawn Bowlsは日本ではまだまだ未開で、知名度の低いスポーツですが、ただ一つ、胸を張って言うことは、国際大会や世界大会に出場出来る機会がたくさんあるということです。

忘れもしない、去年の12月24日。山田誠先生から「来年3月の香港である国際大会に出てみないか？」という吉報の電話を頂いた日。それは、今までで一番大きくて、素晴らしいクリスマスプレゼントでした。それから2ヶ月間、学内の後期試験の勉強や



レポート、アルバイトに追われながらも、少しの時間を割いて練習に励みました。練習の出来ない日は、寝る前にDVDでイメージトレーニングをしたこともあります。

そして、試合第1日目。今回の試合はFoursという4対4のチーム戦で、日本からは私を含めてたった4人だけの出場が私に多大なプレッシャーを感じさせました。昼食後、第1試合がすぐに始まり、相手チーム4人と握手を交わした後、日本チームのリーダーであるDavid Cameronさんが“ I hate losing! Concentrate on every bowl every time!! ”(「絶対に負けたくない。全試合、全球に魂を入れて闘え!」)と、私にとってこれ程印象的で、重みある言葉が私の闘志に火をつけ、快い緊張感を保ったまま試合に臨むことが出来ました。

今回の試合は2種類あり、日本チームとして戦った結果は60チーム中25位で、諸外国の選手とのミックスチームとして戦った結果は13チーム中5位でした。

外大生の皆さんも、学生時代に様々なチャンスを利用して、今しか出来ないことを納得いくまでやってください。最後に今回のような素晴らしい機会を与えて下さった方々に心から感謝致します。本当にありがとうございました。

追加原稿：5月30日から6月5日までマレーシアで行われたアジアローンボウルズ大会に、2部英米学科4回生の赤松正宏君と国際関係学科3年生小山潤君が日本代表として出場しました。

~~~~~  
**ドン・キホーテ400周年記念  
スペイン人形劇『キホーテ』公演  
(5月16日、大ホールにて)**  
~~~~~

今年は、スペインが生んだ世界文学『ドン・キホーテ』(セルバンテス作、正編1605年刊)の刊行からちょうど400年にあたる。本学では、これを記念してスペイン大使館、関西カタルーニャセンターとともにスペイン人形劇『キホーテ』の公演を主催した。

この人形劇は、日本の伝統芸能「文楽」なども参



考にして考案された、成人観客を対象とするものである。台詞を一切用いず、動きだけでストーリーや登場人物の心理を表現することで、言語の壁を乗り越えて鑑賞できるため、演じる劇団「バンバリーナ」は、世界各地で活躍している。



公演は5月16日11時半から、大ホールに学生、教員を主とする約250人の観客を集めて開かれた。東谷学長のスペイン語によるあいさつに続いて上演が始まり、幻想的な照明の中で騎士ドン・キホーテと従士サンチョ・パンサの冒険が繰り広げられた。人形たちはわずか2人の若者によって操られているとは思えないほど生き生きと活躍し、風車への突進や、サンチョのケツあげなどのエピソードをみごとに再現した。



この上演に感銘を受けた学生たちは、「すばらしかった。ドン・キホーテの物語をもっとよく知っていれば、さらに理解できたのではないかと思う。これから原作を読みたい。」と口々に語っていた。

なお、この公演は同日午後、兵庫県民会館においても、また前日、大阪の海遊館ホールにても行われ、いずれも成功裏に幕を閉じた。

国際都市、神戸の名にふさわしい本企画が実現できたことは、大学当局、学生諸君、そして主体となって尽力したマリアム・ブディア交換教員をはじめ、多くの方々のおかげです。心から感謝申し上げます。(イスパニア学科教員一同)

2005年度教職員人事(その2)

<p>人 事</p> <p>[職員]</p> <p>異 動 (4月22日付)</p> <p>(転 出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庶務課庶務係 久 松 徹 (環境局中央事業所へ) ・ 学生課学生係 伊 橋 暁 子 (須磨区まちづくり推進部総務課へ) ・ 学生課教務係 古 田 郁 治 (兵庫区保健福祉部保護課へ) ・ 研究所事務係 中 尾 美智子 (西区まちづくり推進部市民課へ) <p>(転 入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庶務課庶務係 永 井 豊 久 (建設局総務部庶務課(神戸市道路公社)から) ・ 庶務課経理係 磨 井 光 範 (企画調整局企画調整部企画課 (阪神・淡路大震災復興基金)から) ・ 学生課教務係 森 井 一 幸 (建設局垂水建設事務所から) ・ 学生課教務係 宮 本 益 代 (保健福祉局障害福祉部 心身障害福祉センターから) 	<p>(学内異動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究所 担当主査 木 下 秀 雄 (学生課担当主査から) ・ 学生課学生係 森 田 育 生 (庶務課経理係から) ・ 学生課学生係 若 井 正 章 (学生課教務係から) <p>[嘱託職員]</p> <p>退 職 (4月30日付)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庶務課 (管理員室) 青 木 サヨミ ・ 学生課 (保健室) 山 本 春 美 〃 堀 江 紀代子 ・ 研究所 (事務室) 金 田 龍 子 ・ 図書館 (事務室) 碩 圭 子 〃 渡 辺 佳 視 〃 津 村 正 茂 <p>新規採用 (5月1日付)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 庶務課 (管理員室) 荒 木 幸 子 ・ 学生課 (保健室) 松 田 南生美 〃 太 下 美智子 ・ 学生課 (学生会館) 山 本 政 勝 ・ 図書館 (事務室) 阪 建 樹 <p>学内異動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館 (事務室) 谷 口 武 司 (図書館(視聴覚ライブラリー)から)
---	--



永井 豊久さん 磨井 光範さん 森井 一幸さん 宮本 益代さん 荒木 幸子さん 松田南生美さん 太下美智子さん 山本 政勝さん 阪 建樹さん

行 事 予 定

7月19日(火)～25日(月).....	補 講
7月26日(月)～8月1日(月).....	前期試験
8月2日(火)～10日(水).....	集中講義
8月2日(火)～9月25日(日).....	夏季休業
8月7日(日).....	第1回大学説明会(オープンキャンパス)
8月26日(金).....	第2回大学説明会(オープンキャンパス)
9月13日(火)～22日(木).....	集中講義
9月26日(月).....	後期授業開始